

2010 年度受託研究概要報告

授産商品開発プロジェクトに関する作業所へのものづくり支援

研究メンバー

- 見寺貞子 デザイン学部ファッションデザイン学科教授
 かわいひろゆき デザイン学部ビジュアルデザイン学科教授
 柘伸江 芸術工学研究所研究員

委託者

社会福祉法人神戸市社会福祉協議会

研究概要

大学・企業・関係団体・行政・神戸市社会福祉協議会が連携し、「授産商品開発プロジェクトチーム」を設置した。継続的な連携により障害者施設等に対してコーディネートを行い、デザイン、販路開拓、営業面での助言・指導により魅力ある商品づくりを通して作業所に関わる人達の自立と社会参加を最終目標とする。

平成 22 年度は下記の内容を実施した。

- ①障害者施設・小規模作業所等の現状・ニーズ把握と市場調査
- ②新規に募集する施設・小規模作業所・ネットワーク組織への支援
 - 光の村授産学園 × スマイルショップ花
 - かみかみネット
 - 農のデザインプロジェクト
- ③授産振興シンポジウム『売上UPの第一歩は商品開発と販路開拓から～先進事例から学ぶもの～』の開催

研究成果

- 2010 年度は、情報の共有化や企画に対して意見を出し合う「トライ&エラー」（試行錯誤）を実施することにより、自身の気づきややる気に繋がり、市場を意識したモノづくりが可能になることが明らかになった。
- 授産振興シンポジウム『売上UPの第一歩は商品開発と販路開拓から～先進事例から学ぶもの～』の開催からネットワークの利点として、①各作業所の整備や技術、情報を共有し合えること、②役割分担ができ、互いに支え補完し合えること、③少量受注から中量受注が可能になることなどが明らかになった。しかし、各作業所は、日常業務で追われ、授産商品のブラッシュアップや発信もできない現状がある。また商品開発するための資金調達も困難である。このような状況の中、ネットワークを円滑に運営するためには、各作業所の作業状況を把握し、外部との窓口・まとめ役としてのリーダー的人材の確保、経済・社会市場を把握し、顧客のニーズ把握やケアができる営業担当者、作業所の特性を理解し、今後の商品開発のデザイン指導ができるデザイナーをネットワークに介在させることが重要である。授産商品が社会と繋がるためには、福祉分野や小規模作業所単独の社会活動ではなく「社会とつながる人的ネットワーク」の確立と開発資金の支援が必要であり、今後、各機関・立場からの支援を期待したい。



写真1 かみかみ net いかり作業所での紙漉きの様子



写真2 授産振興シンポジウム開催風景